

学ぶ意欲を高めるための改善に関する研究

植田深幸*・魚住政男**・澤本 章***・林川基治***・宮崎擴道****

Investigation on how pupil's will to study increases

Miyuki UEDA, Masao UOZUMI, Akira SAWAMOTO,
Motoharu HAYASHIKAWA and Hiromichi MIYAZAKI

(Received September 26, 2008)

キーワード：学校教育、生徒、学習、アンケート、意欲、教材、技術、ものづくり

1. 緒 言

近年、青少年の学力低下、不登校、学級崩壊、理工系離れ、ものづくり技術離れ、などの学校教育現場での問題が生じている^{(1),(2)}。この中で、学力低下の問題は重要であり、学力を向上させるために、学ぶ意欲を高める必要がある⁽³⁾⁻⁽⁶⁾。また、これからの時代を生き抜いていく子どもたちに、自ら学び自ら考える力、を育成していくことが求められている。このためには、子どもたちが自ら意欲をもって学習に取り組むことが必要である。そこで、国際調査結果から子どもたちの学力の実状について把握した上で、大学生に「学ぶ意欲を高める工夫」についてのアンケートを実施した。そして、学ぶ意欲を高めるためにどのような工夫をしていくべきかを検討した。

2. 研究方法

2000年、2003年、2006年の OECD 国際学習到達度調査と1995年、1999年、2003年の IEA が行った国際数学・理科教育動向調査結果より、我が国日本の学力の実状の把握に努めた。また、現在の学校で行われている学ぶ意欲を高める工夫についても、その把握に努めた。小学校教育に対する意識や意欲について、山口大学学生へ「小学校学習時を振り返っての学習に対する意欲について」のアンケート調査を行った。そして、子どもたちの学ぶ意欲を高めるためには、どのような工夫や改善が必要かを検討した。アンケート調査は平成19年12月～平成20年1月の期間に行った。山口大学1年生、2年生、3年生、4年生総数97人（男性50人、女性47人）についてアンケートを実施した。

* 下松市立久保中学校

** ホームネットワークウオズミ

*** 山口大学

**** 元山口大学

3. 研究結果

3. 1 日本の学力の実状

3. 1. 1 国際学習到達度調査 (PISA)

経済協力開発機構 (OECD) による 3 回目の国際学習到達度調査 (PISA) の結果が平成19年12月4日、公表された⁽³⁾。日本は、科学的リテラシー (応用力) と数学的リテラシーの2分野で順位を4つ、読解力でも1つ下げた。全般的にみて、成績の低落傾向にまだ歯止めはかかっていない。成績上位国と比べ、理解度が低い層が目立ち、学習に対する意欲や関心は、参加国中、最低レベルといった状況にある。

○科学的応用力

OECD 平均との比較では、日本はなお好成绩と言えるが、成績上位国と比べると成績が劣る。

日本の成績を上げるには、理解度の低い子どもたちをいかに減らすかが課題となる。

PISA では、テストに加え、科学に関する関心や意欲をアンケート方式で調べている。こちらの調査でも日本は低い結果となった。例えば、「科学についての本を読むことが好き」は36%で、参加した57カ国・地域中最下位。「科学に関するテレビ番組をみる」「科学に関する雑誌や新聞の記事を読む」はともに8%で、やはり最も低かった。

理科の授業について、「習った考えを日常の問題に応用するよう求められる」11%、「クラス全体で討論などする」4%は、参加国中、いずれも最下位である。

日本の科学的リテラシーの順位、得点の推移は、2位 (得点550点) (2000年) → 2位 (得点548点) (2003年) → 6位 (得点531点) (2006年) である。

○数学的リテラシー、読解力

数学的リテラシーでは、インドネシア、メキシコ、ギリシャ、ブラジルが前回より成績が上昇。逆に、日本、フランス、オランダなど9カ国は下がった。日本の数学的リテラシーの順位、得点の推移は、1位 (得点557点) (2000年) → 6位 (得点534点) (2003年) → 10位 (得点523点) (2006年) である。

読解力では今回、香港、韓国、ポーランドが前回から上昇。特に韓国は22点伸びて556点となり、フィンランドを上回って首位に。一方、スペインやノルウェーなど6カ国は下がった。

日本の読解力の順位、得点の推移は、8位 (得点522点) (2000年) → 14位 (得点498点) (2003年) → 15位 (得点498点) (2006年) である。

数学的リテラシーと読解力でも、科学的リテラシーと同様に、成績上位国と比べた日本の低位層の多さが目立つ (低得点層が多い)。

以上から、日本は読解力、科学的リテラシー、数学的リテラシーの全てにおいて、2000年→2003年→2006年と低下している。決して低いレベルではないが、今後子どもたちの学力がどのようになるのか心配される。特に読解力においてはもはやトップレベルではない。また、科学的リテラシー、数学的リテラシーにおいても、低学力層の底上げが重要であり、今後の改善に必要とされる。

3. 1. 2 国際教育到達度評価学会 (IEA) の国際数学・理科教育動向調査結果

国際教育到達度評価学会 (IEA) が小学校4年生・中学校2年生を対象に実施している「国際数学・理科教育動向調査」では、学校のカリキュラムで学んだ知識や技能がどれだけ習得されているかを問うものである。2003年 (平成15) 年2月に実施された TIMSS2003 (46カ国・地域が参加) によると⁽²⁾、日本の児童生徒の学力は国際的に見て上位にある。日本の数学 (中

学校)のTIMSSの順位、得点の経過は、3位(得点581点)(1995年)→4位(得点579点)(1999年)→4位(得点570点)(2003年)である。日本の理科(中学校)のTIMSSの順位、得点の経過は、2位(得点554点)(1995年)→3位(得点550点)(1999年)→4位(得点552点)(2003年)である。

結果を見てみると、数学(算数)・理科において順位は低下または変わらないである。しかし、現在子どもの理数離れが問題になっている。同調査の質問紙の数学・理科の勉強が楽しいかを「強くそう思う」、「そう思う」、「そう思わない」、及び「まったくそう思わない」と4つの選択肢で尋ねた設問に答えた生徒の割合の結果を見て見ると、日本は「強くそう思う」と子どもの割合が、国際平均を大きく下回っている。学校外での一日の時間の過ごし方についての調査結果を見てみると、「テレビやビデオを見る」時間が国際平均を大きく上回り⁽⁴⁾、「家の仕事(手伝い)をする」時間は国際平均より大きく下回った。また、日本の中学校2年生は「宿題をする」時間が平均1時間と、参考データとしてのイギリスを除外すると45国・地域中で最下位の45位であった⁽⁴⁾。理数離れだけでなく学ぶ意欲の低下も懸念される場所である。

3. 2 アンケート調査結果

アンケート調査用紙を図1に示す。図1より、アンケートは選択式の問いの部分と記述する内容や意見について記述する部分から構成される。アンケートの内容は、小学校での教科、ものづくり、学習意欲に関するものである。

図2は、①「小学校の教科の中で好きなもの、楽しかったものはどの教科ですか。また、その中で印象に残っているのはどのような内容でしたか。」(選択肢:国語・算数・理科・社会・体育・図画工作・家庭科・生活・音楽・特になし)に関する回答結果をまとめたものである。図2より、小学校の教科の中で好きなものや楽しいものは、体育や図画工作、家庭科や音楽などの中学校で言われる主要科目以外の、実技教科という答えが男女ともに多い。表1には、この質問への意見を記しているが、黒板を使った授業や教師の話などよりも、実際に生徒が自分の手や体を動かした活動が印象に残っていると推察される。

図3は、②「小学校の教科の中で嫌いまたは、楽しくなかったのはどの教科ですか。その中で印象に残っているのはどのような内容でしたか。」(選択肢:国語・算数・理科・社会・体育・図画工作・家庭科・生活・音楽・特になし)に関する回答結果をまとめたものである。図3から、小学校の教科の中で嫌いなものや楽しくなかったものは、国語や算数などの基礎的なものや、体育や家庭科、音楽などの得手・不得手がでやすい教科が多かった。また、特になしという回答が3分の1を占めていた。嫌いなものや楽しくなかったものは、基礎的な内容や、繰り返し行う内容、得手・不得手が出やすいものが多い。表2は意見をまとめたものである。

図4は、③「小学校の教科の中で大切だと思ったもの、将来役に立つと思ったものはどの教科ですか。また、印象に残っているのはどのような内容でしたか。」(選択肢:国語・算数・理科・社会・体育・図画工作・家庭科・生活・音楽・特になし)に関する回答結果である。図4より、小学校の教科の中で大切だと思うもの、将来役に立つと思うものは、国語や算数などの基礎的な教科や、家庭科や生活などの実生活に役立つ教科が多い。また、すべて大切だという意見も多い。さらに、表3から、漢字や計算、調理実習など日常生活に役立つ内容が多い。図画工作や音楽などの教科も、将来の趣味として役に立つという意見もある。

図5は、④「小学校の教科の中で大切でないと思ったもの、将来役に立たないと思ったものはどの教科ですか。また、その中で印象に残っているのはどのような内容でしたか。」(選択肢:

国語・算数・理科・社会・体育・図画工作・家庭科・生活・音楽・特になし)に関する回答結果である。図5より、小学校の教科の中で、大切でないもの、将来役に立たないと思うものは特になしという意見が圧倒的に多い。また、図5及び表4からその内容を見てみると、生活に直接役に立たないものや、音楽など得手・不得手をはっきりしているものが多いものと思われる。

図6は、⑤「ものづくりは好きですか。その理由はなんですか。」(選択肢：好き・どちらかと言えば好き・どちらでもない・どちらかと言えば嫌い・嫌い)に関する回答結果である。図6から、ものづくりは好きかどうかについて見てみると、好き、どちらかと言えば好きが約3分の2を占めている。表5から、理由については、楽しい、達成感がある、好きなものを作れるという意見が多い。ものづくりが嫌い、どちらかと言えば嫌いと答えた回答者の理由を調べると、苦手、うまく作れない、人より遅いという意見があった。したがって、ものづくりを行う際は、ある程度の難易度があつて、なおかつ達成感が味わえるようにすることが大切であると推察される。

図7は、⑥「子どもの学ぶ意欲を高めるためには、どのような工夫や改善が必要か」について、賛同するものがあれば、以下の①～⑦に○をつけてください。いくらでも○はつけてもよいです。これらの他に良い方法があれば、ご意見を是非、記入してください。」の回答結果である。

(選択肢)：

- ① こどもがおもしろいと思うような授業内容とする
- ② パソコン、ビデオなどの視聴覚機器を使い学びの効果と意欲を高める (ICT教育の推進)
- ③ 将来の職業を想定させ、そのための学びであることをこどもに意識させる
- ④ 早寝、早起き朝ご飯を実行して、こどもに頭の回転と体力をつけ、学びの力をつける
- ⑤ こどもの興味が湧き、集中できる教材を開発する
- ⑥ 手を使った演習や体験学習を取り入れる
- ⑦ グループ学習をする

図7及び表6から、子どもの学ぶ意欲を高めるためには、子どもの興味や関心を大切に、自分の意見を発表する場などを適度に設けていくことが大切であることがわかる。また、活動や視聴覚機器を必要に応じて取り入れていくことが大切である。

図8は、⑦「子どもの学ぶ意欲を高めるための方法として、とくに有効と考えられるキーワードを以下の①～⑬から、4つ選んでください。」の回答結果である。

(選択肢)：

- ① 授業のおもしろさ
- ② 授業の雰囲気 (明るさ、たのしさ)
- ③ 教師の説明法 (話し方、話術)
- ④ 興味を引く教材 (物)
- ⑤ 学ぶ意義 (将来の職業)
- ⑥ 親の学びへの誘導 (日頃の会話によるしつけ)
- ⑦ パソコン、テレビ、ビデオなどのメディアなど併用した学習 (ICT教育)
- ⑧ 親の後姿 (親が勉強している姿を見て、子は真似る)
- ⑨ グループ学習
- ⑩ 演習、体験学習を取り入れた授業

- ⑪ さし迫った動機（受験）
- ⑫ 睡眠
- ⑬ 遊びなどの気分転換

図8から、授業が大切だという意見が非常に多い。また、学ぶ意義という意見が少ない。表7から、子どもの学ぶ意欲を高めるための方法として、その他のキーワードには、説明する時の「メリとハリ」、「自ら学ばせる」、「動機付け」、「社会見学」、「有能な教師」、「教師の話し方（テンポ）」、「まわりの環境」が有効であるとの意見がある。

図9は、**8**「これまで、必修ではありませんでした。ほとんどの小学校で児童に英語に親しむ内容の英語指導がなされてきました。このたびの指導要領の改訂で、「小学校への英語教育が必修化」されようとしております。これについてどう思いますか？」の回答結果である。

図9より、英語教育の必修化について、非常に賛成、賛成の意見が多い。表8から、1) 国際化社会だから、2) 将来必ず必要だから、3) 習得には早い段階から行ったほうがよいからという意見も多数ある、反対意見として、4) 英語に力を入れる前に国語にもっと力を入れたほうがよい、5) コミュニケーション程度に抑えたほうがよいという意見がある。賛成、反対どちらの人も、国語力をつけることが大切だという意見が共通しているように推察される。

4. 結 言

子どもたちの学ぶ意欲を高めていくことは、これからの教育において非常に重要な課題である。日本の子どもの学力低下は重要な問題であり、それにかかわって学ぶ意欲の低下も重要な問題である。学ぶ意欲は子どものころから身に付けていくことが大切である。そのためには、①子どもの興味・関心を大切に、体験や活動を効果的に取り入れること、②学習のための学習つまり、基礎基本の徹底を行っていくことが大切であること、③子どもたちの身近な事象に関連付けて行っていくことが重要である。

学習指導要領が改訂され、主要教科の授業時間数の増加と、総合的な学習の時間の授業時間数3分の1削減、そして小学校において英語が必修化されようとしている。生きる力を育むために、前回改定において打ち出された総合的な学習の時間が早くも3分の1削減されることになったことを受け、効率よくかつ他の教科と連携して行っていくことが大切になってくる。そのために教材を工夫していくことも大切である。

参考文献

- (1) 大谷南海男、「教育の力で日本を変えよう」（文芸社）（2002）
- (2) 宮崎 擴道、「創始期の手工教育実践史」（風間書房）（2003）
- (3) 2007年（平成19年）12月5日 朝日新聞 13版 「学力不安さらに」
- (4) 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/12/04121301.htm
- (5) 内藤文夫 「問題解決能力を育てるための理科指導法に関する研究—ものづくりの工夫を通して—」
- (6) 市川伸一 「学ぶ意欲とスキルを育てる いま求められる学力向上策」（株式会社小学館）（2004）

「学習に対する意欲についてのアンケート調査」

回答者：学部()、年齢(才)、
性別(男、女 、いずれかに○印)

に○をつけてください。
(理由：)

失礼いたします。私は、教育学部 技術教育選修4年 植田・深幸と申します。私は、「子どもたちの学ぶ意欲を高めるためには、どのような工夫や改善が必要か、また、そのための教材」について卒業研究をしています。みなさんの意見を参考にしたいと思っています。また、小中学校の学習の内容や状況についてもご意見を聞きますので、ご協力よろしくお願ひします。

教育学部 技術教育選修4年 植田 深幸

(質問)

① 小学校の教科の中で好きなもの、楽しかったものはどの教科ですか。また、その中で印象に残っているのはどのような内容でしたか。(国語・算数・理科・社会・体育・図画工作・家庭科・生活・音楽・特になし) 該当するものに○をつけてください。

(内容：)

② 小学校の教科の中で嫌いまたは、楽しくなかったのはどの教科ですか。その中で印象に残っているのはどのような内容でしたか。(国語・算数・理科・社会・体育・図画工作・家庭科・生活・音楽・特になし) 該当するものに○をつけてください。

(内容：)

③ 小学校の教科の中で大切だと思ったもの、将来役に立つと思ったものはどの教科ですか。また、印象に残っているのはどのような内容でしたか。(国語・算数・理科・社会・体育・図画工作・家庭科・生活・音楽・特になし) 該当するものに○をつけてください。

(内容：)

④ 小学校の教科の中で大切ではないと思ったもの、将来役に立たないと思ったものはどの教科ですか。また、その中で印象に残っているのはどのような内容でしたか。(国語・算数・理科・社会・体育・図画工作・家庭科・生活・音楽・特になし) 該当するものに○をつけてください。

(内容：)

⑤ ものづくりは好きですか。その理由はなんですか。(好き・どちらかといえば好き・どちらでもない・どちらかといえば嫌い・嫌い) 該当するものに○をつけてください。

⑥ 「こどもの学ぶ意欲を高めるためには、どのような工夫や改善が必要か」について、賛同するものがあれば、以下の①～⑦に○をつけてください。いくらかでも○はつけてよいです。これら他に良い方法があるようでしたら、ご意見を是非、記してください。

- ① こどもがおもしろいと思うような授業内容とする、
- ② パソコン、ビデオなどの視覚機器を使い学びの効果と意欲を高める (ICT教育の推進)、
- ③ 将来の職業を想定させ、そのための学びであることをこどもに意識させる、
- ④ 早寝、早起き朝ご飯を実行して、こどもに頭の回転と体力をつけ、学びの力をつける、
- ⑤ こどもが興味を湧き、集中できる教材を開発する、
- ⑥ 手を使った演習や体験学習を取り入れる、
- ⑦ グループ学習をする)

(その他のご意見：)

⑦ こどもの学ぶ意欲を高めるための方法としてとくに有効と考えられるキーワードを以下の①～⑬から、4つ選んでください。

- (語群A)
- ① 授業のおもしろさ、
 - ② 授業の雰囲気 (明るさ、たのしさ)、
 - ③ 教師の説明法 (話し方、話術)、
 - ④ 興味を引く教材 (物)、
 - ⑤ 学ぶ意義 (将来の職業)、
 - ⑥ 親の学びへの誘導 (日頃の会話による、しつけ)、
 - ⑦ パソコン、テレビ、ビデオなどのメディアなど併用した学習 (ICT教育)、
 - ⑧ 親の後姿 (親が勉強している姿を見て、子は真似る)、
 - ⑨ グループ学習、
 - ⑩ 演習、体験学習を取り入れた授業、
 - ⑪ さし迫った動機 (受験)、
 - ⑫ 睡眠、
 - ⑬ 遊びなどの気分転換

(とくに有効と思われる番号を4つ記してください：)

・その他に有効なキーワードがあれば記してください。
・その他のキーワード：)

⑧ これまで、必修ではありませんでしたが、ほとんどの小学校で生徒に英語に親しむ内容の英語指導がなされてきました。このたびの指導要領の改訂で、「小学校への英語教育が必修化」されようとしております。これについてどう思いますか？。(1. 大いに賛成、2. 賛成、3. 普通、4. 反対、5. 大変反対) 1つに○をつけてください。
(ご意見：)

図1 アンケート用紙

図2
「小学校の教科の中で好きな科目」についての回答結果

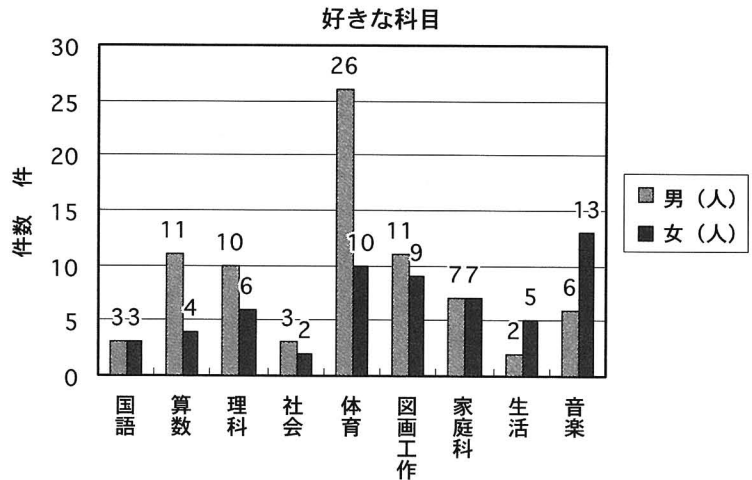


表1 「好きな科目」についての意見

	男	女
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作者の考えを発見していくこと 1人 ・ 本読み 2人 ・ 心理描写をしていくこと 2人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字 1人 ・ 本読み 2人 ・ 物語を制作すること 1人
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習、計算 3人 ・ 九九 1人 ・ 図形 2人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そろばん 1人
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ コイルでおもちゃを作ったこと 1人 ・ 実験をしたこと 3人 ・ 生物系 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験 6人 ・ 専門的なこと 1人 ・ 模型を使ったもの 1人
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史 1人 ・ 地理 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史の登場人物について新聞を作る 1人
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 球技 9人 ・ 水泳 1人 ・ 運動会 ・ 跳び箱、マット 3人 ・ 全部 3人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縄跳び 1人 ・ 球技 3人 ・ 全部 2人 ・ マット 1人 ・ マラソン 2人 ・ 運動会 1人
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵 5人 ・ 工作 2人 ・ 全部 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 版画 1人 ・ 絵 1人 ・ 工作 2人
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理実習 5人 ・ エプロン制作 1人 ・ ナップサック製作 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理実習 5人 ・ 裁縫、ミシン 2人 ・ エプロン制作 1人
生活		<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なものを取り上げた内容 1人 ・ 季節を見つける内容 1人 ・ 学校外での活動 1人 ・ 栽培 2人
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱会、音楽祭 2人 ・ ユニゾン 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽祭 5人 ・ リコーダー 3人 ・ 合唱 2人

図3
「小学校の教科の中で
嫌いまたは、楽しくな
かった教科」について
の回答結果

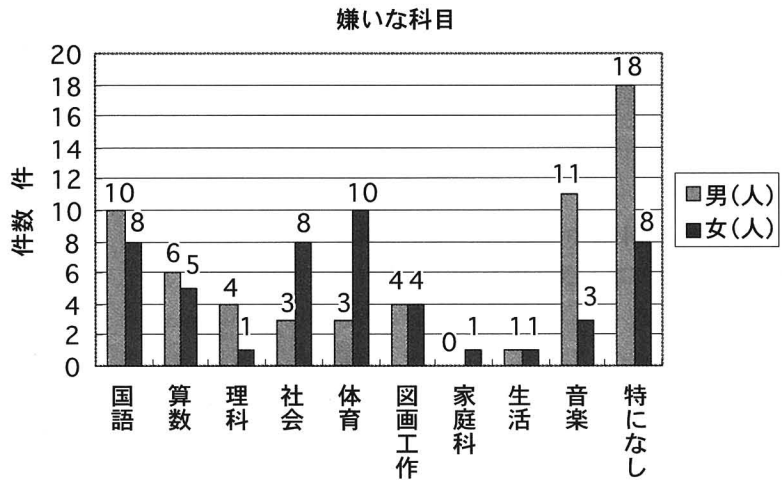


表2 「嫌いな科目」についての意見

	男	女
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の思い、感情 2人 ・漢字の練習 1人 ・本読み 4人 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の暗記 1人 ・本を読み、考える 3人 ・評論要約 1人 ・漢字練習 1人
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習 1人 ・距離、速さ、時間 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算演習 1人 ・図形 3人 ・文章問題 1人
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験 1人
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史（今に関係ないから） 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史 1人 ・暗記（覚えるだけの教科だから） 2人 ・政治 1人
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 1人 ・競争をするもの 1人 ・何もできなかった 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・汗をかく内容 1人 ・跳び箱、マット 4人 ・球技 2人 ・集団行動 1人
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> ・絵（才能がないから） 3人 ・版画 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作 2人 ・絵 1人
家庭 科		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の探検 1人
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌 2人 ・演奏（楽譜が読めない） 4人 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌のテスト 2人 ・歌 1人
特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関して楽しくないという印象はなかった 1人

図4 「小学校の教科の中で大切と思う科目」の回答結果

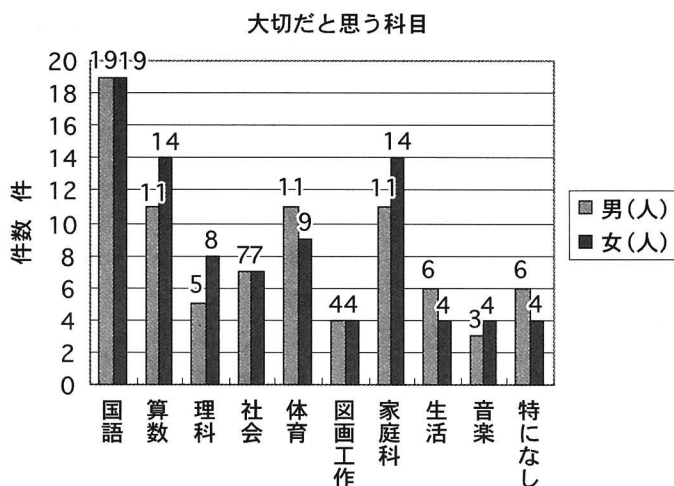


表3 「大切と思う科目」についての意見

	男	女
国語	<ul style="list-style-type: none"> 生活していく上で必要 3人 作文 1人 漢字 6人 読む力、書く力 5人 母国語だから 1人 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字 6人 読み取り(読解力) 4人 生活に役立つ 2人 作文・感想文 1人 コミュニケーション 1人
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算 2人 論理的思考力 1人 日常生活で役立つ 	<ul style="list-style-type: none"> 計算 4人 買い物するときに必要 2人 日常生活に最低限必要 1人
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験 1人 	<ul style="list-style-type: none"> 体験 1人 自然のしくみ 1人
社会	<ul style="list-style-type: none"> 職場訪問 1人 社会見学 1人 	<ul style="list-style-type: none"> 大人になって必要 1人
体育	<ul style="list-style-type: none"> 陸上 1人 球技 2人 集団行動、社会性、仲間との協力 3人 	<ul style="list-style-type: none"> 健康維持(将来的) 1人 体力をつける 2人 体を動かす 1人
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 趣味の発展 1人 版画 1人 	
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫 3人 調理実習 5人 生きていく上で必要 2人 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習 7人 生活に役立つ 3人 裁縫 3人 住まいの選び方 1人 食育の大切さ 1人
生活	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルール 1人 ゴミの流れ 1人 流通の仕組み 1人 地域の職場見学 1人 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌 1人 一生の趣味になる 1人 	
特になし	<ul style="list-style-type: none"> 何も考えてなかった 1人 小学校の時にはそのような意識をしていなかった 	

図5
「小学校の教科の中で
大切でないと思う科目」
の回答結果

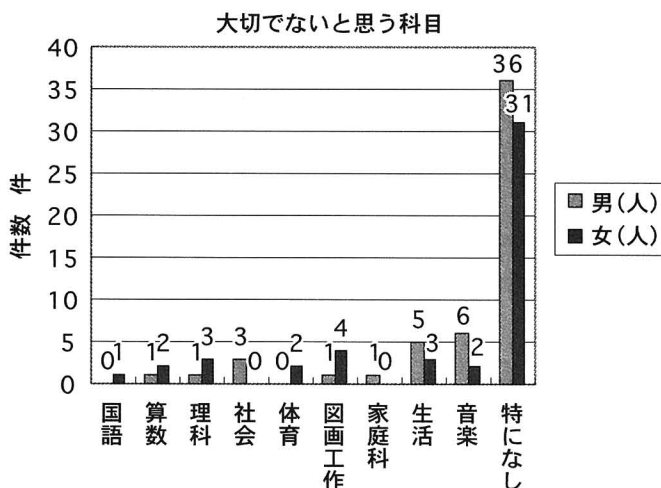


表4 「大切でないと思った科目」についての意見

	男	女
国語		<ul style="list-style-type: none"> ・問題作者の意図にあった答えが一つ用意してありその答えに従わなければならない 1人 ・自由な発想を阻害してしまう 1人
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・面積 1人 ・角度 1人 ・生活に役立つのが不明 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算はそこまで必要ない 1人
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残っていない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・石の名前 1人 ・化学的なこと 1人
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・興味がひかれなかった 1人 ・印象に残っていない 1人 	
体育		<ul style="list-style-type: none"> ・好きなスポーツ以外のページは全く見なかったから、役に立つとは思わなかった 1人
図画工作		
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で教えるもの 1人 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・何をしたのかわえていない 2人 ・家庭で教えるもの 1人 ・テレビを見るだけだった 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの制度についての学習は役に立たない 1人 ・よく覚えていない 1人
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う以外に音楽に接する機会がない 1人 ・リコーダーの必要性がわからない 1人 ・楽譜が読めない 1人 ・好きな人だけすればよい 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ 1人
特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科が必要 3人 ・何かの役に立っている 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関して楽しくないという印象はなかった 1人

図6 「ものづくりは好きですか」の回答結果

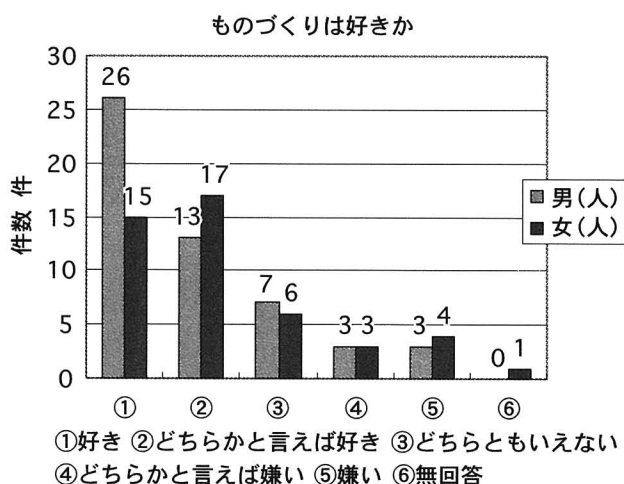


表5 「ものづくりは好きですか」の理由についての意見

	男	女
好き	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを形にしていく難しさとすばらしさ 2人 ・自分の手の中で1つのものができる過程が面白い 3人 ・完成したときの達成感 4人 ・楽しい 3人 ・工夫できる 4人 ・夢中になれる 3人 ・頭だけではなく体を使える 1人 ・自分だけのものがつくれる 3人 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい 3人 ・あるものを別のものに作り変えたときの感動 1人 ・達成感 2人 ・思い出に残る 1人 ・好きなものを作ることができる 2人 ・他の授業より集中できる 1人 ・喜びが大きい 1人 ・自分の発想を形に表現できる 1人 ・変化していくことが面白い 1人
どちらかと言えば好き	<ul style="list-style-type: none"> ・ものをつくること自体は楽しい 3人 ・夢中になるが、時間がたつとだんだんいやになる 2人 ・作っていくとワクワクする 1人 ・細かい作業が好き 1人 ・愛着がわく 1人 ・作ることは好きだが、手間取るため、苦手意識がある 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が一から作り上げることに面白さを感じる 1人 ・完成したときのうれしさ 5人 ・自分のつくったものは大切にしたい 1人 ・楽しい 7人 ・人と比べられたくない 1人 ・意欲的に取り組むことができる 1人
どちらでもない	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらでもない 1人 ・そのときの気分によって違う 1人 ・好きなものをつくることは好き 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・独創的なものを作るのは好きだが、型にはまった決められたものを作るのは気が進まない 1人 ・苦手ではないが、生きていく上で特に必要ではない 1人 ・機会があまりない 1人 ・面倒くさい 1人
どちらかと言えば嫌い	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり器用ではない 1人 ・面倒 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・上手につくることができない 1人 ・面倒くさい 1人
嫌い	<ul style="list-style-type: none"> ・作るのが人より遅いから 1人 ・苦手だから 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとものづくりが苦手だから 1人 ・うまくつけれないから 1人 ・不器用だから 1人

子どもの学ぶ意欲を高めるための工夫や改善について賛同する方法

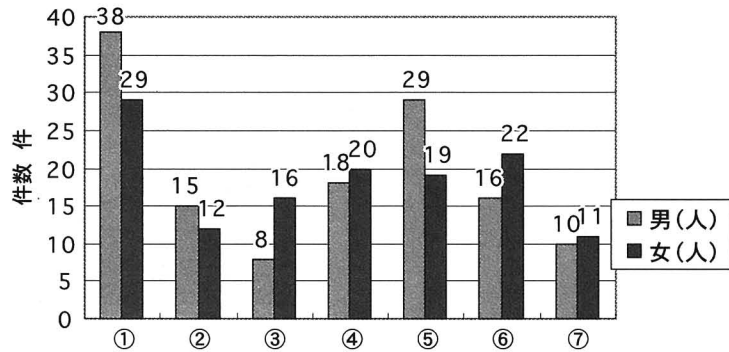


図7

「子どもの学ぶ意欲を高めるための工夫や改善について賛同する方法」の回答結果

- ①子どもがおもしろいと思うような授業内容とする
- ②パソコン、ビデオなどの視聴覚機器を使い学びの効果と意欲を高める
- ③将来の職業を想定させ、そのための学びであることを子どもに認識させる
- ④早寝、早起き朝ご飯を実行して、子どもに頭の回転と体力をつけ、学びの力をつける
- ⑤子どもの興味が湧き、集中できる教材を開発する
- ⑥手を使った演習や体験学習を取り入れる
- ⑦グループ学習をする

表6 「子どもの学ぶ意欲を高めるための工夫」についての意見

男	女
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが「学びたい」と考えている事柄について、先に子どもから直接把握しておいて、その内容について、授業、調べ学習をする ・運動会や研修などの機会を増やし、勉強ばかりではなく、自分を見せる場や息抜きをつくる ・グループ学習のあとに発表する場を設け、グループ間で比較、検討を行う。このとき教員は助言程度におさえる ・子ども一人一人に対して、効果のある評価法（叱咤、激励など）をする ・人間の道を教える 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがある授業テーマの中で自分自身たちが何を学ぶか、どうやって勉強していくか考え、学習していく方法。例えば、理科の実験方法や算数では自分で問題を作るなどすること ・力のある教育者を採用する ・本を読む習慣を身に付けさせる ・地域の人を交えた体験学習をする ・子どもたちが興味のある、流行なものなどを取り入れる

図8 「学ぶ意欲を高める有効な方法」の回答結果

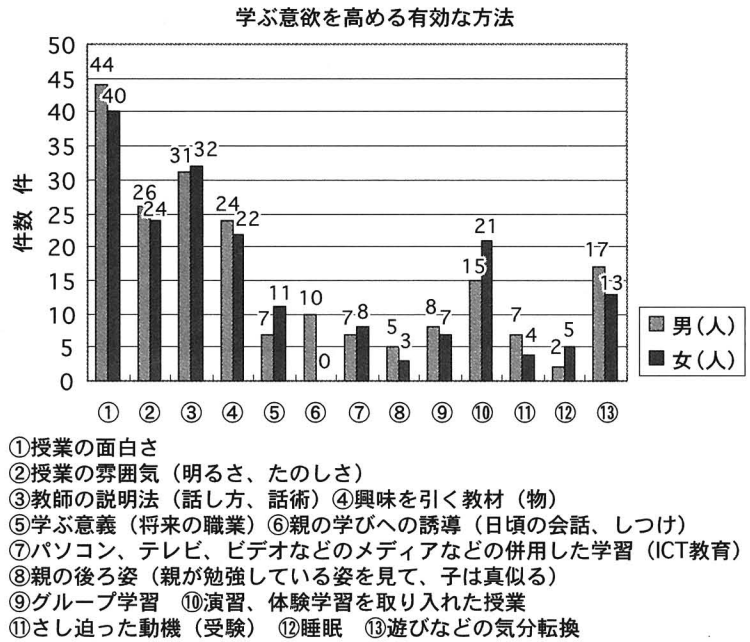


表7 子どもの学ぶ意欲を高めるための方法に関する意見

男	女
<ul style="list-style-type: none"> ・メリとハリ ・自ら学ばせる ・動機付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会見学 ・有能な教師 ・先生が説明するときの話し方(テンポが重要) ・まわりの環境

図9
「小学校への英語の必修化」の回答結果

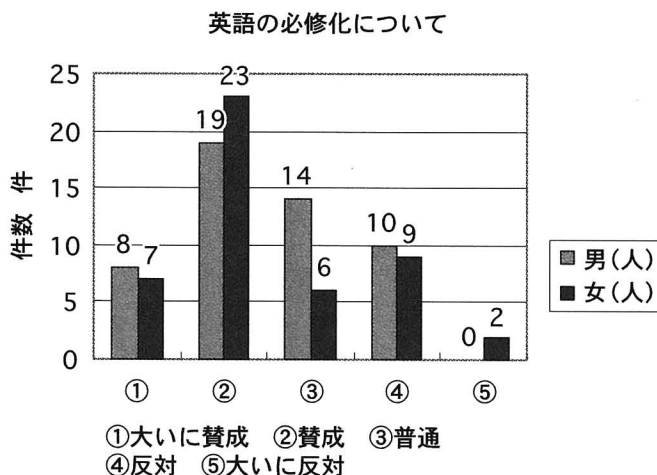


表8 「小学校への英語の必修化」への意見

	男	女
大いに賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・12歳までの語学教育が必要である 1人 ・社会で重要な位置を占めている 2人 ・苦手意識が少なくなる 1人 ・習得に違いがでる前に必要である 1人 ・日本にいても英語が必要である 1人 ・中学校では遅すぎる 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を身に付けやすい 1人 ・興味を持ちやすい 1人 ・慣れておくことが必要 2人 ・国際化が進んでいる 1人 ・話すことを中心に行うべきである 1人
賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・後の学習がしやすくなる 4人 ・抵抗力がなくなる 1人 ・英語のレベルが低い 1人 ・小さい頃から始めないと英語の力がつかない 2人 ・コミュニケーション中心で行うことが大切である 2人 ・国際化に伴い、ある程度必要である 4人 ・中学校からでは間に合わない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し触れていてもよい 2人 ・その後の勉強に影響がでる 2人 ・外国とつながる仕事が多い 2人 ・身につけやすい 2人 ・他の教科が削られるのは反対 1人 ・これから重要になる 1人 ・早いうちからが大切(後が楽) 2人 ・英語に対する抵抗感が減る 1人 ・英語の面白さ 1人
普通	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を最優先するべきである 1人 ・必要性を感じない 1人 ・英語は触れる程度で十分である 1人 ・やっておいたほうがよいが、必修化までは必要ではない 1人 ・負担になるのではないかと 2人 ・あまり大きく変わらない 1人 ・国語力もつけないといけない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語をおろそかにしなければ、必修にしてもよい 1人
反対	<ul style="list-style-type: none"> ・国語力の低下を見直すべきである 6人 ・結局は日本語力がなければ、相手に納得させるように話せない 1人 ・英語を始める前に、ゆとり教育を見直すべきである 1人 ・理数にかける時間が少なくなってしまうのでは 1人 ・時間がない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの負担になる 3人 ・人の命の大切さを教えたほうがよい 1人 ・日本語でのコミュニケーションから始めたほうがよい 2人 ・国語力が先である 2人 ・中学校からでも間に合う 1人 ・楽しむ程度でよく、必修化の必要なし 1人
大変反対		<ul style="list-style-type: none"> ・国語力をつけるべき ・日本語の授業数が減る 1人